

善隣

No.528 通巻795

2022年（令和4年）9月1日発行（毎月1日発行）

2022

9



一般社団法人 国際善隣協会



一石会囲碁例会の風景

善隣

目 次

2022年9月号

公開講演会記録

メルケル政権16年の果たした歴史的役割をどうみるか?百濟 勇 2

ウクライナ戦争を仕掛けたのは、誰か?矢吹 晋 10

現代社会で必須な環境倫理学「エコエティカ」について佐藤建吉 19

陶々俳壇馬場由紀子選 27

中国ウォッキング編・訳 上松玲子 28

協会通信・同好会だより 30

2022年9月の行事予定 31

みんなの写真館 30
(姜晋如、村田嘉明、藤沼弘一)

— 善隣 第528号 通巻795号 —

2022(令和4)年9月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会
TEL 03 (3573) 3051
FAX 03 (3573) 1783発行人 矢野一彌
編集 原田克子
編集協力 朝 浩之、校 正 菅沼玲子
印刷所 (有)ゆにおんプレス
定価 一部400円 年額4,800円
振替 00120-0-145956
国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345
©禁無断転載

当協会は、中国ならびに近隣諸国との相互理解を深め、友好親善・交流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

メルケル政権16年の果たした歴史的役割をどうみるか？

駒澤大学名誉教授 百濟 勇



まず発表の機会を与えて頂きました「国際善隣協会」及び「善隣中国塾」の関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

コール政権と並ぶ16年間続いた「メルケル政権」、引退を機に様々な評価が行われています。独フレンスブルグ大学教授であるハウケ・ブルンクホルスト氏（Prof. Dr. Hauke Brunkhorst, die Europa-Universität Flensburg）は、メルケルへの批判論者としても有名ですが、16年間続いた「メルケル政権」に対して、「長期戦略なき緊急時の政治家」であったのでしょうか？

メルケル政権は16年も続き、この間

存しない、凝り固まつた信念を持たない人。コール首相との比較で、保守党、CDU（キリスト教民主同盟）は伝統や文化を尊重する国民政党であったが、メルケルはその保守的な思想を捨ててしまつた。メルケルの最大の実績の一つは、CDUを壊してしまったこと！（朝日新聞、2021・11・11）、と指摘しています。多くの点でブルンクホルスト教授の指摘で納得する点もありますが、だが、「長期戦略なき緊急時の政治家」であったのでしょうか？

問題、コロナ禍と激動の時代を通り抜け、かつ堅実な経済成長を背景に欧洲連合（EU）でもその存在感を蓄積していました。ここにドイツ統一を果たしたコール政権を引き継ぎ、今年で20周年となるユーロの導入という歴史的課題を果たしたメルケル政権、コール政権と併せての32年間、その後半の歴史的な課題を遂行したことにメルケル政権の最大の貢献があつたと考えます。今日、EUをバックにして政治的、経済的地位を築いたのです。その典型的な風景、トランプ大統領に迫るメルケルの場面でしょう。

政治家、過去のドイツの首相のなかで聰明さはなかった。イデオロギーに依

りーマンショック、ユーロ危機、難民

1990年10月3日、「ドイツ統一」



欧洲大陸最大の経済国、ドイツ、EUを背景にして政治的にも大きな影響力を持つ大国となった。
その象徴としてメルケルがトランプ米大統領に迫る！

(G7サミット カナダのシャルルル・ヴォワ2018年6月)

これを事実上取り仕切ったのはコール首相でした。当時の英首相、サッチャーは終始一貫して“ドイツ統一”には反対でした。当初ミッテラン首相も、壁崩壊直後、急速東ベルリンを訪問、東自由民主党（LDPD）の歓迎を受けおり、それは明らかに『ドイツ統一反対』のシグナルだったのです。実質的に“東独最後の首相”であったハンス・モドロウ（Hans Modrow）さん、私の長年の友人ですが、当事者の一人として、その当時の複雑であった国際事情をぼつぼつと語ってくれていました。

壁崩壊20年後、当時の英外交文書が公開されています
(壁崩壊20年後の2009年11月4日に公開)。東西ドイツ統一を英仏首脳は「快く思っていないかった！」のです。当時の英国首相、マーガレット・

サッチャーは、終始ドイツ統一に反対しており、「東西ドイツの統一に恐怖さえ感じていた」のです。ミッテラン首相も壁が崩壊した1989年には、ドイツ統一を予期していなかっただし、支持もしていなかつたのです。壁崩壊後20周年にあたり公開されたフランスの外交電報によると、サッチャー首相は1990年3月に、フランスの駐英大使に、「フランスと英国は手を取り合って新しいドイツの恐怖にたち向かうべきだ」と言っているのです。サッチャー首相の側近のメモによると、1990年1月、ミッテラン大統領はパリで行われた夕食会で、サッチャー首相に次のよう漏らしています。「この統一は、ヒットラー以上の力を持つかかもしれない！」と恐れています。(© AFP / Anne-Laure Mondesertより)

ここで壁崩壊、その後の“統一”までの過程を百濟の個人的な経験を含めて述べていきましょう。

『壁崩壊』後、すぐに百濟は東ベルリンを訪れました。10階建ての集合住

宅地域、その一画の広場でお孫さんとお爺ちゃんがアイスクリームを食べながら遊んでいました。国家崩壊という事態、そのなかでの“静かな風景”が強い印象として残っています。

さらに百濟はすぐにベルリンの中心街、ジャンダルメンマルクト広場に面している建造物、「東独社会科学院アカデミー」、その総裁室に向かいました。総裁室は既に閉鎖され、廊下には山積の書類が散らばっていました。総裁、ラインホルト先生、その際の挨拶は相互に“肩をすくめる！”だけの“会話”でした。廊下には足の踏み場もないよううに散らかっている書類の束、「ああ！國家がなくなることはこうした風景か！」との強い印象を持ちました。

百濟は、ブランデンブルグ門での『壁』開放式典（12月22日）のデモの真ん中にいました。壇上でコール西独首相、モドロウ東独首相、西ベルリン・モンパー市長、東ベルリン・クーラー市長が参加、両首相の短い挨拶後、小雨降るなかで足元の泥と隣人の傘から滴り落ちる水滴を気にしながら、

ウンター・デン・リン・デン通りを背にして静かにブランデンブルグ門に向けて動き出しました。ビールやシャンパンを片手にした大衆は、ブランデンブルグ門の庇が頭上に近づくにつれては次第に興奮状態となっていました。そして百濟は如何なる国家関係であろうが、ひたひたと迫りくる《ドイツ統一への流れ》を肌で感じとりました。

その3日前（12月19日）、シャオ・シユ・ピールハウス（現・コンツェルトハレ）前の広場では『主権国家・ドイツ民主共和国』再統一、身売り反対のスローガンで5万人のデモ集会が行われていました。このジャンダルメンマルクト広場での集会、その片隅に1台のパトロールカーが停まっていました。2人の警察官はデモとはまったく“異質の空気”的な手持ち無沙汰、所在無げに立ったままの“静止の風景”、私はそれをみて「国家権力の空洞化」を感じとりました。

その約1か月半後の翌年（1990年）の2月、再度訪独、主な滞在地は反体制運動の中心地、既に“月曜日デモ”で有名になっているライブ・チッヒモ”で有名になっているライブ・チッヒでした。百濟も6か月間在籍していました。ライプチッヒ大学（1990年創立）、懐かしい街なのです。

1989年9月4日から始まっていた“月曜日デモ”、それに参加してみました（1990年2月12日）。駅前はデモ参加のためにライプチッヒ中央駅から降りてくる人々で一杯、そして西独国旗を掲げながら三々五々オペラ座とゲヴァントハウス・ホールに囲まれた広場の集会会場、それに向かっていました。そこで百濟のショック、それまでの「刷新された社会主義」「（西独資本社会と違う）より良い社会の建設！」などのスローガンに代わって、「西独マクルクがこなければ、我々は東独を去る！」のスローガン、大衆の要求は《西独マクルク崇拜》になっていたのです。統一を要求する西独国旗に混ざって見慣れぬ“旗”もあったのです。百濟はデモ参加者の一人に、「何の旗？」と聞くと「ザクセン州の旗だよ！」と教えてくれました。これは西独基本法第23条による西独への「編入・合併」の要求を

意味しているのです。東独時代の県単位（Bezirk）の行政組織から州政府（Bundesland）組織に改組して、ここ「ザクセン州議会」で決議すれば「その編入は効力を発する」（基本法23条）のです。ライプチヒといえばゲヴァントハウス管弦楽団、世界的な指揮者、クラウス・マズワード（Kurt Masur）です。そこで百濟は「ゲヴァントハウス（館）」を訪ねてみました。クラウス・マズワードは北京での天安門事件（1989年6月4日）を“教訓”に、デモに対する官憲の介入、“血の集会”にならぬよう東ドイツ政府に積極的に働きかけていたのです。このようにクラウス・マズワードは、夫人と共にこの“月曜日デモ”、それへの国家権力介入阻止に大きな役割を果たしていたのです。ご本人には会えませんでしたが、“お付きの者”が、「マズワードさん、後世に政治家としてのマズワードではなく、やはり音楽家としてのマズワードの名で残りたい」と冗談を言つてますよ！」、とのことであった。

1989年12月22日のブランデンブルク

ルグ門「開放式典」では、確かに『ドイツ統一の流れ』を肌で感じたとはいって「東西・モドロウ政府」が求めていたのです。モドロウ首相は、1990年2月1日、（東独）人民議会において「軍事的中立と連邦制を基本とする両ドイツ統一案」を提示しています。百濟の再度の訪独、わずか1か月半の流れで情勢は一変していることを痛感しました！さらに1990年1月13日、西独は既に「東西ドイツ経済・通貨同盟」構想を発表していました。3月18日、東独初の「普通選挙」が行われました。その初の“普通選挙”、その2日前には西独元首相、東西ドイツ社会民主党の名誉党首であるヴィリー・ブランド氏が、東独のヴィスマール市（旧ハンザ同盟都市として有名）のマルクト広場で3万人を前にして演説、4日前にはライプチヒ・カールマルクス広場（現・アウグストウス広場）の選挙集会にヘルムート・コール首相が演説、東独市民に大歓迎を受けていました。



デメジエール氏を祝福するコール首相

かかる東独初の普通選挙の結果、ここで東独CDUが大勝、そして4月12日、人民議会でローター・デメジエール氏が首相に選出されました。デメジエール氏は“政治家”ではなかつたのです。首相退任後、一般書店で本を探しているデメジエール氏を百濟はたびたび見かけましたが、物静かな知識人でした。それだけにコール首相に“都合の良いお人柄”だったのです。

1990年5月5日、USA、ソ連、

イギリス、フランス、西ドイツ及び東
ドイツ外相による最初の「4+2」の
外相会議が開催され、その結果199

0年9月24日に、東ドイツがワルシャ
ワ条約機構から脱退したのです。東ド
イツ駐留ソ連軍は1994年に撤退し
ますが、つまり“平和革命”時点でも
重武装したソ連軍はドイツに滞在して
いたのです。かかることも留意してお
かなければなりません。

1990年5月18日、『東西ドイツ
経済・通貨・社会同盟条約』が締結さ
れ、コール首相は「自由で統一された
ドイツの誕生」と発言、「西独マルク
が来なければ、東独を去る!」のスロー
ガム、そのマルク(DM)がやってき
たのです。1990年7月1日、この
「通貨同盟」が発足、東ドイツマルク
と西ドイツマルク、1対1の比率で西
ドイツマルクに替わったのです。即ち、
一夜にして10大工業国の一員であった
東独、1600万人を対象にした西独
マルクの導入、商店の棚の東ドイツ製
品を西側のそれに替えた稀なる“歴史

的実験”だったのです。

1990年9月、学会参加と西ドイ
ツマルク導入後の情勢を見るために、
百濟はベルリンとボンを訪問しました。

この東ドイツの併合という“東西ドイ
ツ統一”、かつ“マルク導入”といっ
たまったく経済法則を無視した政策、
その導入による一連の激変、当時、
「ドイツ経済研究所(DIW)」の東独
研究の第一人者であるコーネルソン博
士は、「ドイツ統一は何時があるとは
思っていませんよ!」だが、私の生き
ている時代で!」とは百濟との雑談で
の発言でした。

ボンでは「ドイツ研究所」を訪ね、
所長と“雑談”を交わしました。彼は
コール首相の側近であったのですが、
“雑談”的ななかでないと聞けない発言、
「どんな犠牲を払っても東独への西独マ
ルクの導入はする!」と断言していた
ことが、強い印象として残っています。

1998年10月、友人である連邦大
蔵大臣を辞したばかりのオスカー・ラ
フロンテンさんが『読売フォーラム』
に参加のために来日しました。来日前

に彼から「フォーラムが終わった後、
百濟と“飲み屋”に行きたい」との電
話が研究室に入っていました。新宿、

渋谷と案内しましたが、彼は雑談のな
かで、“西ドイツマルクと東ドイツマ
ルク、1対1の交換比率”に関して、
「大方の政治家は、この1対1の交換
比率の通貨同盟には反対であった!」
「当時私は、かかる1対1の交換比率
の導入は、新連邦州(東独)の経済力
を失わせ、数百万人の失業者を生みだ
すだろう!」「東独地域の経済の息の
根を止めることである」と主張した、
とのことでした。「でも、大方の連邦
議員たちは、総選挙直前であったので
表立って反対とは言えなかったのだ」
との事情も語ってくれました。

1990年7月2日、「東西ドイツ
統一条約」交渉が開始されました。7
月22日、東独人民議会は10月3日に東
ドイツを西ドイツに編入することを決
議、8月31日、東ベルリンで「東西ド
イツ統一条約」を調印、9月20日、東
独人民議会は賛成3分の2の採決で条

約を承認したのです。1990年10月3日、ベルリン帝国議会前で「黒・赤・金」のドイツ国旗が掲揚され、「ドイツ統一の日」となったのです。東独建国41周年記念日を4日後に控えて東ドイツは国家としての存を終えたのです。



つ『大国ドイツ』を築きあげたこと、そうした16年間の“安定したメルケル政権”、それこそメルケル首相の最大の貢献であったと言えましょう。その象徴は「マーストリヒト条約」に基づいて「ドイツ・マルク（DM）」をEU共通通貨「ユーロ（?）」へと転身させたことでしょう。

1991年12月、オランダのマーストリヒトで開催されたEU首脳会議で採択された「マーストリヒト条約」、翌年、1992年に正式調印がなされ、1993年11月に発効、このEUの最大の課題は、「経済通貨同盟（EMU）」の完成であり、遅くとも1999年までに「欧洲中央銀行（ECB）」を創設し、単一通貨（ユーロ）を導入」、することでした。

1992年6月3日、デンマークの国民投票が行われ、「マーストリヒト条約批准拒否」。当時百濟は「ドイツ経済研究所（DIW）」に在籍していましたが、所員間では「鼠（デンマーク）が象を引っくり返した！」と

の雑談で終わつたことを思い出します。ドイツの研究者の多くは、当時、「反対」であつたのです。「単一通貨ではなく、とりあえずドイツ、フランス及びベネルックスからの通貨同盟から実施」との意見は、既に1992年春から議論されていたのです。だが同僚のドイツ銀行の調査部のショイヤー氏（博士）からは、「あくまで個人の意見だよ！」と念を押されながら、「ドイツ統一の際にコール首相は、ミッテラン仏首相と“密約”で欧洲通貨同盟がフランスに有利になるように確約している。そこで重要なことは、将来の『欧洲中央銀行（ECB）』の設置場所です。フランクフルト市（ドイツ）設置を、ドイツ側は固守するでしょう。そのECBの所在地は、「マルクの安定戦略」から言って妥協できないのです。だが、欧洲通貨同盟の成立は21世紀の問題で、ドイツはマルクをエキュー（欧洲通貨単位）に代えるリスクには賭けない。西独国民のドイツ統一によるマルクへの危惧が、欧洲通貨同盟への不安を呼んでいる。EU12か国の質

メルケル政権の最大の貢献、即ち、コール政権を引き継ぎ、今日の国際的に政治的、経済的な大きな影響力を持

的統合よりも、EFTA（欧洲自由貿易連合）や東欧諸国との量的及び地域的拡大のほうに力をいれる！」、これが当時のドイツ側経済学者の一般的な考え方であったのです。

だが、ここに国内通貨であるマルクをユーロに転身させることによって『マルクの国際通貨』『USドルに次ぐ国際基軸通貨』への転身への道が開かれたのでした。現在、世界第2位の中国经济、だが2022年1月の時点で世界貿易に占める人民元の割合は3・2%、日本の円のそれを抜き世界第4位の取引割合となつたものの、ドルの39・9%、ユーロの36・6%と大きな差があるのです（毎日新聞、2022年4月5日）。勿論ユーロリマルクではあります。しかし、もしドイツがマルクのままあつたならこれほどドイツ経済が国際貿易決済において大きな影響力を持つことができたでしょうか？このようにドイツ経済はユーロ導入によって『為替相場の乱れ』の影響から『解放』され、国際基軸通貨への道となつ

たのです。たとえマルクがユーロに変わったとしても。

1992年2月に「歐州連合条約（マーストリヒト条約）」を調印、19

93年1月1日、単一市場と“4つの自由”（人、物、資本、サービスの移動の自由）が確立しました。1994年1月1日、「歐州經濟通貨統合（EMU）」、第2段階が始まり、マクロ経済政策の協調強化が図られ、経済収斂基準の達成、「歐州通貨機構（EMI）」の創設が決められました。1995年1月にオーストリア、フィンランド、スウェーデンが新たにEUに加盟、国境検閲をなくす「シエンゲン協定」が発効します。ベネルックス3国、スペイン、ドイツ、フランス、ポルトガル間の旅券審査廃止、12月15～16日、マドリード欧洲理事会で単一通貨の名称をユーロに決定、2002年からEMUにおける唯一の法定通貨となつたのです。ドイツ連邦銀行及びドイツの州立銀行をモデルにした「歐州中央銀行（ECB）」が、ドイツのフランクフルト・マイン（Frankfurt am Main）でありますことは絶対譲れません！」と断言しました。このフランクフルト市は

市に設置され、初代総裁にオランダ銀行総裁、オランダ大蔵大臣を歴任したウィム・ディセンベルクが初代総裁に就任しました。

この時期に百濟は、やはり「ドイツ経済研究所（DIW）」に研究員として在籍していました。ユーロ導入という情勢のなか、「ドイツ経済研究所（DIW）」の食堂での昼食時、横に座つたEU財政問題で有名なフランツマイヤー博士（Dr. Fritz Franzmeyer）に「歐州統一通貨の導入は果たして進展しますかね？」と質問したのです。彼は、既に指摘したドイツ銀行調査部のショイヤー氏（博士）とある意味で同じ論理を披露してくれました。「この歐州統一通貨導入の前提条件は欧洲中央銀行（European Central Bank, ECB）の設立です。ドイツは初代の欧洲中央銀行総裁は狙いません。だが、ECB本部の設置場所はフランクフルト・マイン（Frankfurt am Main）であることは絶対譲れません！」と断言しました。このフランクフルト市は

歴史的にもユダヤ資本の拠点であり、ドイツ金融資本の本拠地なのです。そこで、「フランクフルトに欧洲中央銀行の設立が決まれば、欧洲統一通貨の導入は進む！」とのこの貴重な情報を、『ベルリン情報』として私の所属学会の長老であった佐藤経明氏（横浜市立大学名誉教授）、それに西村可明氏（一橋大学経済研究所教授）、渡辺暁氏（三井物産貿易経済研究所取締役）及び長宗我部友親氏（共同通信經理局長）に知らせました。

さて、ドイツにとってユーロ導入は如何なる影響をもたらしたでしょうか？ここで総括してみましょう。

ドイツはこのユーロ通貨により大きな利点を得ています。それはまずユーロ諸国間で為替レートの手数料や変動がないこと、特に輸出国であるドイツは、"実質的なマルク安"の恩恵を受けているのです。さらにドイツの輸出の40%が、対ユーロ圏とのそれなのです。再度申し上げます。"ドイツ統一"に導いた"強引な"コール政権、それを引き継ぎ、最も困難であった「ユー

ロ導入」という歴史的課題を果たしたメルケル政権、このコール政権と併せてのメルケル政権の32年間の"安定政権"、その後半でメルケル政権が"歴史的課題"を遂行したこと、ここにメルケル政権の最大の貢献があったと考えます。

（2022年4月15日・公開講演会）

筆者略歴（ももすみ・いさむ）

1934年、北海道に生まれる。ベルリン経済大学（1963～1970年）在学、1970年、経済学博士（Dr. rer. oec.）取得。さらにベルリン経済大学特別研究員（1978～85年）、公開論文審査で1985年、ドイツ正教授資格（Dr. hab. i.）取得。その間、日本では「アジア経済研究所」、「ジェトロ（日本貿易振興会）」の委託研究員を歴任。1978年駒澤大学外国学部教授。1991年より20年間、「ドイツ経済研究所（D.I.W.）（ベルリン・創立1927年）客員研究員、その間

一時期、「キール世界経済所」（IfW）（創立1914年）の客員研究員を兼任、ベルリン・キール間を往復する。2005年、駒澤大学名誉教授。

単著：『ドイツの民営化』（共同通信社）、『EUの「東方拡大」とドイツ』（日本評論社）、『EU・ロシア経済関係の新展開』（日本評論社）。

W」（創立1914年）の客員研究員を兼任、ベルリン・キール間を往復する。2005年、駒澤大学名誉教授。

ウクライナ戦争を仕掛けたのは、誰か？

横浜市立大学名誉教授 矢吹 晋（会員）



私はベルリンの壁が崩れて10年目の1999年夏、ブダペストで40日間暮らした。ハンガリー科学アカデミー世界経済研究所に招かれた形をとつて「ハンガリーと中国」の経済体制の比較研究を行った（矢吹晋「ブダペストで中国の未来を考える」『大航海』1999年12月号）。人口1000万のハンガリーと12・5億（当時）の中国の比較可能性を疑う向きもあるう。しかししながら、中国市場経済改革の旗手朱鎔基（当時国務院国家経済委員会副主任）が1984年3月、経済改革のモデル探しの旅でハンガリーを訪問している。当時の中国指導部がハンガリーの経済改革に深い関心を寄せていた事

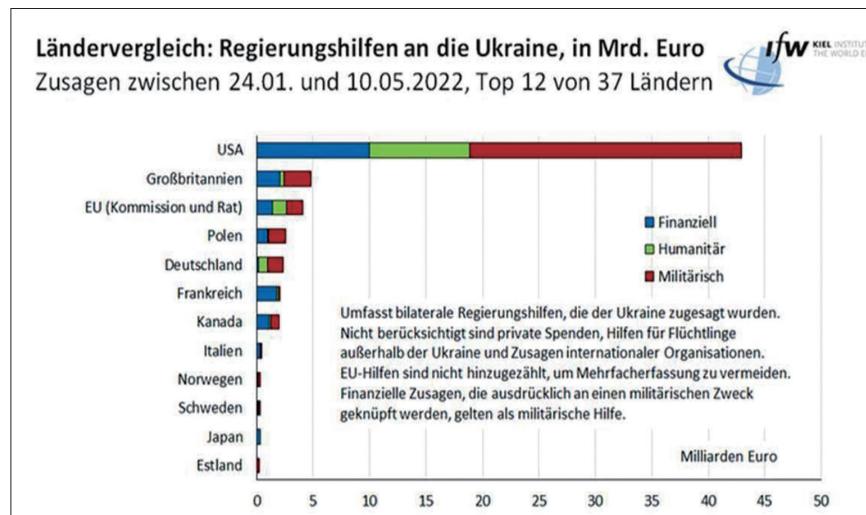
実を読み取ることができよう。私がブダペストで暮らした1999年には、ハンガリーにポーランド、チェコスロバキアを加えた東欧3か国は、EUへの参加準備を進めており、2004年に加盟した。ここまで東欧3か国のヨーロッパ化が進むと中国にとつてはもはや改革モデルの選択肢から外れるが、天安門事件当時も、それ以後も「蘇東波」という世界カラーレvolutionの波が繰り返し中国を襲っていて、私はその帰趨に釘付けであった。そのような問題意識で東欧の行方を考えた私の目から見ると、「中立ウクライナ」こそが鉄のカーテン崩壊以後のヨーロッパ世界とロシアとの見えざる境界である事実は明らかであり、NATOの東方拡大、とりわけ「ウクライナのNATO加盟」は妄想か挑発としか思えなかつた。（鉄のカーテン）で著名なジョージ・ケナンも、ニクソン訪中を実現させたキッシンジャーも、この論調を堅持していた。これが米国独り勝ち以前の地政学の常識であった。

I. ウクライナ戦争を仕掛けたのは、誰か？

ロシア・ウクライナ戦争が2022年2月に始まって以来約半年、ようやく戦争の全体像が見えてきた。次の図のグラフは、ドイツの著名なシン

波）という世界カラーレvolutionの波が繰り返し中国を襲っていて、私はその帰趨に釘付けであった。そのような問題意識で東欧の行方を考えた私の目から見ると、「中立ウクライナ」こそが鉄のカーテン崩壊以後のヨーロッパ世界とロシアとの見えざる境界である事実は明らかであり、NATOの東方拡大、とりわけ「ウクライナのNATO加盟」は妄想か挑発としか思えなかつた。（鉄のカーテン）で著名なジョージ・ケナンも、ニクソン訪中を実現させたキッシンジャーも、この論調を堅持していた。これが米国独り勝ち以前の地政学の常識であった。

クタンク（キール世界経済研究所）が作成した。この分析によると、米英両国が圧倒的に、力を使っている。米国はダントツで軍事援助（赤）、資金援助（青）、人道援助（緑）を提供している。その金額は、45億ユーロである。ユーロとドルの交換比率は、これまでユーロが米ドルよりも強かつたが、



今回の戦争を通じて経済的負担（直接的軍事・経済負担およびサプライチェーンの寸断による経済混乱）を被つたために、ユーロは米ドルよりも弱くなつた。これは20年ぶりである。細かい計算はさておき、概観のためにユーロ＝米ドルと読むと、米国は45億ドル支出した。この金額は米国筋から流れている（戦費約50億ドル）という数字に近い。さて、このグラフで注目されるのは、英国とEUとの比較だ。英國1か国の支出はEU全体を上回る。ジョンソン前首相はスキンダルで失脚したが、在任中、EU離脱を断行して世界を驚かせた。が、ウクライナ戦争への積極的関与はこのグラフから明らかだ。逆にドイツとフランスの支出が小さいことは、数年前に米国国務省のヌーランド国務次官補（現国務次官）の罵詈（Fuck EU）発言が想起される。これはウクライナのNATO加盟に余りにも消極的な独裁の煮え切らない態度をヌーランドが罵倒したものだ。ヌーランドはウクライナから米国に亡命し、米国外交に関わる1人として、ウク

イナの「民主化＝米国化」に対してもいかに前のめりになつているかを、この〈Fuck EU〉発言が端的に示した。英國の援助が米国に次いで多く、EU全体よりも多い点は、この戦争が英國の協力を得て、米国が始めた戦争である本質を何よりも雄弁に物語る。ここで米国の専門家ミアシャイマー教授の分析を紹介したい。

ミアシャイマーは1970年にウェストポイントを卒業し、5年間空軍に勤務した。その後、1975年にコネル大で博士号を得て、1979～80年ブルッキングス研究所、1980～82年ハーバード大国際事情センターでリサーチフェローを務めた後、シカゴ大学でテニュアを得て、以後40年シカゴ大学で安全保障論を講じてきた専門家である。数冊の本を書いて、それらはいずれも高い評価を得たが、ここで特に言及したのは、*The Great Delusion: Liberal Dreams and International Realities*（2018、邦訳なし）である。『大国政治の悲劇』（五月書房）は翻訳があるが、『大幻影2018』は

翻訳なし。私はミアシャイマー教授の本を知らなかつたが、たまたま「ウクライナのNATO加盟」を批判する論客がいるはずだと確信してネットを調べ、ミアシャイマー教授の卓説を発見して我が意を得た次第である。ミアシャイマーの見解は、英『エコノミスト』3月19日号に寄稿した「西側はなぜウクライナ危機に対して主たる責任があるのか」(Why the West is principally responsible for the Ukrainian crisis)

枚の図から、ウクライナ危機の核心を読んでみよう。

図1は、ウクライナ

の人種構成とその言語生活である。言語状況を読むと、1. 赤は大部分がウクライナ語を

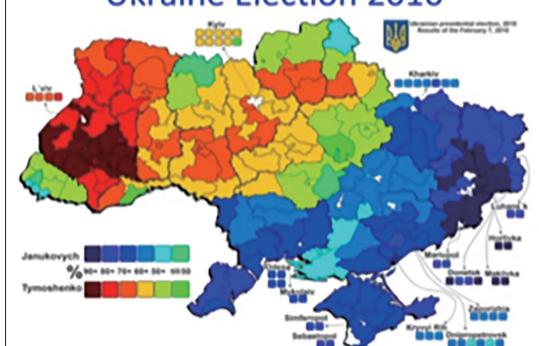
話す、2. 桃はウクライナ語が主流、3. 黄は大部分がロシア語を



図2. 2004オレンジ革命が始まった当時のウクライナ選挙



図3. 2010ウクライナ選挙で親ロシア派勝利



話す、4. 薄い黄はロシア語が主流、5. 茶斜線はカルパチア山脈のウクライナ人である。ロシア人の分布を見ると、5の茶はロシア人が多数派、6. クリミア半島はロシア人からなる。その他の少数民族は、7. 黒はルーマニア人・モルドバ人、8. 緑はハンガリー人、9. 紫はブルガリア人を示す。図2は、ウクライナ2004年大統領選で、決戦投票は反ロシア派が勝利した。茶色はユシチエンコ票、青はヤヌコビッチ票を示す。当初、決選投票により与党ヴィクトル・ヤヌコビッチ首相（親

ロシア）が当選とされた。しかし、野党「我らのウクライナ」の指導者ヴィクトル・ユシチエンコ元首相の陣営が不正を行つたとして勝利宣言。以後、野党支持者によるデモや政府施設への包围が続き、同国内は混乱状態に陥つた（オレンジ革命）。親欧米感情が強い西部（首都キーウ、旧ボーランド領リヴィウなど）が野党支持で、親露感情の強い東部が与党支持。同年12月26日に実施された再決選投票でユシチエンコ元首相（反ロシア）の当選が確実

になる。図3は、2010年大統領選はヤヌコビッチ（親ロシア）が巻き返しに成功した。2010年ウクライナ大統領選挙、第1回の投票は2010年1月17日に行われ、前首相で地域党の党首であるヴィクトル・ヤヌコビッチが1位、首相のユーリヤ・ティモシェンコが2位となつた。2010年2月7日に決選投票が行われ、ヤヌコビッチ（親ロシア）がティモシェンコ（オレンジ系）に勝利。これが2010年時点における民意だ。しかしながら、このヤヌコビッチ（親ロシア）が反ロシア派による2014年クーデタでウクライナを追われ、ロシアに亡命した。この2014年クーデタこそが今回のウクライナ戦争の発端だ。ウクライナで、親ロシア派の政権が瓦解した事実に恐怖を感じたブーチンはクリミア併合を断行した。黒海艦隊がセバストポリ港の出口を塞がれ地中海への出口を失うことを恐れたのだ。由来ロシアの不凍港獲得への熱意は、極東のウラジオストク、大連・旅順港をめぐる角逐を通じて日本でも周知だ。ヤヌコビッ

チがEUと交渉せず、と言明したのは、2013年11月21日だ。その後、両派の衝突が続いた。2014年2月18～20日の街頭デモでは26～40名が死亡と報じられた。2014年2月22日、ヤヌコビッチがロシアへ亡命し、親ロシア政権が崩壊した。ブーチンによるクリミア併合は、この事態への対処な

だが、日本の報道では、その前夜の事情が報道されず、ブーチンの併合だけが印象付けられた。旧ソ連解体以後の経過を素描すると、2000年10月ユーロスラヴィアのミロシエビッチ大統領が退陣し、セルビアのブルドーザー革命と呼ばれた。ユーゴはチト一大統領のもとで辛うじて統一してきたが、ソ連解体後のコソボ紛争は大きな悲劇を生んだ。一連のいわゆるカラーポリティック革命を顧みると、ウクライナのオレンジ革命がその中核に位置していることがわかる。2003年＝スターリンの故郷・グルジアのバラ革命（シュワルナゼ政権退陣）。2004年＝フルシチヨフの故郷・ウクライナのオレンジ革命（ユシチエンコ政権支持率低迷⇒2005年ヤヌコビッチ退陣クーデタ⇒ブーチンがクリミア併合）。2005年＝キルギスのチューリップ革命（2月27日と3月13日の2回行われたキルギス議会選挙後、大統領アスカル・アカエフが辞任）。

II. 中国・ウクライナ両国関係

中国は核兵器をロシアに引き渡して〈非核保有国〉になつたウクライナと平和友好協定を結び、中国の核をウクライナに対して用いないと約束し、友好関係を維持している。ウクライナから空母ワリャークを買い取つて遼寧号とし、これをモデルとして、山東号・福建号を国産した。現在ウクライナに人道援助を提供しつつ、日本を含む西側の対ロシア経済制裁は問題解決につながらないと強く批判している。日本では中国とウクライナとの両国関係が十分に理解されていない。中国・ウクライナ両国は1992年に国交を樹立。2001年戦略的パートナーシップ関係

の樹立を宣言。2022年1月、習近平・ゼレンスキーが祝電交換。中国統計で見ると、2021年の中国の対ウクライナ輸出額は前年比36・8%増の94億ドル、輸入額は25・2%増の97億ドルといずれも20%を超える伸び。ウクライナ統計では、2020年、輸出入とも中国が最大の相手国。垂直貿易的構造。ウクライナ向け主要輸出品目は、玩具、携帯電話、パソコン、太陽光パネル・セルなど工業製品が上位。多種多様な中国製品がウクライナ向けに輸出されている。主要輸入品目を見ると、鉄鉱石、トウモロコシ、植物油など、資源・穀物・油脂関係が上位。輸出とは異なり一部品目に輸入が集中。中国と欧州や「一帶一路」沿線国を結ぶ国際貨物列車「中欧班列」は、2020年6月に中国・湖北省武汉市からウクライナの首都キエフ市向けの定期直通列車が、2021年9月にはキエフ市から陝西省西安市向け直通列車がそれぞれ運行を開始。両国は2021年6月、インフラ建設分野での協力の深化に関する協定を締結。両国企業・

金融機関による道路、橋、鉄道などの分野での積極的な協力を推進することで合意した。2020年における中国のウクライナへの直接投資額（フロー）は2106万ドルだった。

III. 2008年春 〈米国独り勝ち幻影 Great Delusion から暴走が始まる〉

幻影あるいは妄想に酔う、2008年秋のリーマン恐慌は、喉元過ぎれば熱さを忘れる例えそのもので、あっさりと忘れられた。

IV. バイデン政権のウクライナ政策

バイデン政権の外交を担う国務長官アントニー・ジョン・ブ林肯Antony John Blinkenは、1962年生まれ、60歳の外交官だ。彼はニューヨーク州でウクライナ系ユダヤ人の銀行家ドナルド・M・ブリンクンと、裕福なハンガリー系ユダヤ人の母との間に誕生した。父のドナルドは1994年駐ハンガリー大使、伯父のアラン・ブリンクンは1993年駐ベルギー大使を務め、外交官一家。父方がウクライナ血統のユダヤ人、

母方がハンガリー血統のユダヤ人だという國務長官ブリンクンがウクライナ問題に通曉しているのは当然であろうが、彼は否応なしにウクライナ覇廩、反プーチン論に引きずられるおそれは否定できません。

米国外交にとってより重大なのは、國務省ナンバー3のビクトリア・ヌーランド国務次官の暗躍だ。ウイキペディアによると、1961年ニューヨーク市生まれ。父方の祖父はロシアから移民したウクライナ系のユダヤ人である。ブラウン大学を卒業後、米国國務省に入省。外交官として、在広州アメリカ合衆國總領事館（1985～1986）、國務省東アジア太平洋局（1987）、在モンゴルアメリカ合衆國大使館（1988）、在ソ連アメリカ合衆國大使館（1988～1996、ソ連担当デスク（1988～1990）、内政担当（1991～1993）、國務次官首席補佐官（1993～1996）、國務省フェロー（1996～1997）、外交問題評議会フェロー（1999～2000）、米国ATO常任委員次席代表（2000～2003）、国家安全保障問題担当大統領補佐官次席（2003

（2005）、オバマ政権下でNATO大使（2005～2008）、米国務省報道官（2011～2013）。ソ連解体後にモスクワ大使館で働き、オバマ政権期に国務次官補としてロシア・東欧を担当し、バイデン政権下で国務省ナンバー3の国務次官（国務長官、副長官に次ぐ）となって、〈オレンジ革命最後の舞台〉を演出した。彼女のエピソードをウイキペディアは、次のように紹介している。2014年2月、パイアット駐ウクライナ大使との通話内容がYouTubeで暴露された。そこでは2013年末からのウクライナの政情不安についての議論がなされ、ヤツェニuk政権の発足が望ましいとされ、クリチコやチャグニボクの排除が合意された。その場でヌーランドは国連によるウクライナへの介入を支持し、ヌーランドの意に批判的なEUを「Fuck EU（くそくらえ）」と悪罵した。当然、米国（トランプ政権のサキ報道官はこの会話内容が本物であることを認め、結局ヌーランドはEU側に謝罪した。2013年12月には、ウクライナをめぐる会議における必要性を国連安保理に提起し、米国間

（2005）、オバマ政権下でNATO大使（2005～2008）、米国務省報道官（2011～2013）。ソ連解体後にモスクワ大使館で働き、オバマ政権期に国務次官補としてロシア・東欧を担当し、バイデン政権下で国務省ナンバー3の国務次官（国務長官、副長官に次ぐ）となって、〈オレンジ革命最後の舞台〉を演出した。彼女のエピソードをウイキペディアは、次のように紹介している。2014年2月、パイアット駐ウクライナ大使との通話内容がYouTubeで暴露された。そこでは2013年末からのウクライナの政情不安についての議論がなされ、ヤツェニuk政権の発足が望ましいとされ、クリチコやチャグニボクの排除が合意された。その場でヌーランドは国連によるウクライナへの介入を支持し、ヌーランドの意に批判的なEUを「Fuck EU（くそくらえ）」と悪罵した。当然、米国（トランプ政権のサキ報道官はこの会話内容が本物であることを認め、結局ヌーランドはEU側に謝罪した。2013年12月には、ウクライナをめぐる会議における必要性を国連安保理に提起し、米国間

にて、「米国は、ソ連崩壊時からウクライナの民主主義支援のため50億ドルを投資した」とも証言している。ブーチンがクリミア併合を断行したのは、一連のヌーランド作戦に対処するためだ。

今回、2022年3月9日、米連邦議会上院外交委員会の公聴会では、ヌーランドがこう証言した。彼女はウクライナに化学・生物兵器はあるかとの質問に対し、こう回答した。〈ウクライナは生物研究所の施設を管理している。我々はロシア軍がそれらを管理下に置くことを懸念している。そのためウクライナ側と協力しそれらの研究資料がロシア軍の手に渡らないよう努力する〉。ヌーランドのいうロシア側に渡らない努力とは、ロシア軍の進駐に備えて研究資料を破棄することだが、この証拠隠滅は十分ではなかった。

ロシア国防省は、米国がウクライナにおける生物研究所の活動に2億ドルの資金援助を行っていたと発表した。これらの研究所は米軍の軍事生物プログラムに参加していたと指摘し、国連生物兵器禁止条約（BWC）の枠組みで協議を開催する必要性を国連安保理に提起し、米国間

で厳しい応酬が行われた。中国外務省はロシア側の問題提起を受け、米軍が国外で生物兵器の開発を進めているのかについて、説明を行うよう強く要求した。というのは、コロナウイルスの発生源をめぐって米中は厳しい対立を展開してきたが、ウクライナの生物実験室のなかに中国が米国に提供したキクガシラ・コウモリの標本が確認されたことで、コロナ発生源をめぐる米中の応酬は新たな段階を迎える。中国側に有利な展開となつたからだ。ヌーランド証言を聞いたSNS書き込みのなかに、昨日までは陰謀論として否定されてきたヌーランドの暗躍が、いまや上院証言で確認されたわけだ。

V. ロシアのエネルギーなしには、E.U.経済は成り立たない

対ロシア制裁はロシアを苦しめるだけでなく、サプライチェーンを寸断して、西側にインフレを引き起こした。米国のオイルシェールや他の方法で、ロシアエネルギーと代替できない。ブッシュ、バイデン両政権の思い上がりと、それに対するしつ返しは明らかではないか。

VI. ロシア革命の、地域を離れた理想

国家作り、（ソ連邦＝ホモ・ソビエティクス）の失敗と国家として未成熟のロシア3兄弟について

①ロシア革命の発端を教えてくれたのはオデッサ港（現ウクライナ領）の幅広い船着き場に蝦夷集するエイゼンシュ

タイン監督の映画「戦艦ポチョムキン」の水兵たちの姿であり、そのイメージは脳裏に焼き付いている。②宇宙船

ボストーク6号のコールサインはチャイカ（かもめ）であり、「私はカモメ」は当時の流行語になつた。音楽家チャイコフスキイを人々は「ロシアの作曲家と信じて疑わない」が、スキーを消したチャイカ（かもめ）の先祖はコサック騎士団の一員であり、チャイコフスキイの家系はウクライナに遡ることがわかる。もう一つ、③旧グルジア出身

ミソ平和共存の道を開いたフルシチヨフは、ウクライナ出身の政治家として旧ソ連のトップまで昇進し、その在任中クリミアをウクライナ領とした（プー

チンが2014年に併合したのは、元来の「ロシア領に戻した」だけという言い分になる）。これら3つの例を見ただけでも、ウクライナとロシアの民族兄弟愛憎劇の一端は察しがつく。実は旧ソ連の中心はスラブ民族の長兄ロシア、次兄ウクライナ、3弟ベラルーシの3兄弟関係から成り立っていた。プーチンは2022年3月2日のゴルバ

チヨフの誕生日祝賀演説で、レーニン、スターリン、フルシチヨフを罵倒し、ゴルバチヨフを手放しで礼賛した。プーチンがこの3名を批判しゴルバチヨフを礼賛するのは、前3者が「ソ連人（すなわちホモ・ソビエティクス）といふを大義名分」で「労働者に祖国はない。万国の労働者は団結せよ」と叫びつつ、ロシア民族の民族的利益を犠牲にしたからだ。ゴルバチヨフはこのような「破産した理想主義」を捨てて、ロシア民族の立場に戻る決断、すなわちソ連邦の解体に踏み切ったことで称賛に値するという論理だ。ブーチンがロシア民族主義への回帰を語るとき、彼の脳裏にあるのは、ロシア民族の被害者意識

である。英語の slave（奴隸）がスラブ民族（Slave）と同じ語源をもつことは、一言聞いただけでわかる。エカテリナ2世の母語がフランス語であり、エルミタージュ美術館の名がフランス語である事実から、辺境ロシアの位置とそのヨーロッパ・コンプレックスが察せられる（欧化主義者はザバトニキと呼ばれた）。ヨーロッパに始まる資本主義の限界地に広がる大地こそがロシアの大地であり、レーニンの『ロシアにおける資本主義の発達』は、極東の『日本における資本主義の発達』と対比で

きるほどに、中心ヨーロッパからはかに遠い。大地はつながっているが、資本主義の市場力の限界が、ロシアや中国の「限界付き市場主義すなわち権威主義的市場経済」の母胎となつたと私は見ている。これは換言すれば、資本主義の半発達＝植民地支配を辛うじて免れた民族の物語なのだ。

VII. ウクライナ悲劇を描いた映画

「赤い闇」と中國人民公社の飢餓構造は酷似している

ロシア革命におけるウクライナの悲劇で忘れないのは、第2次世界大戦前夜の1932～33年にウクライナでは穀倉地帯であるにもかかわらず、スターリンの農業集団化と穀物輸出強行のために200～300万人が餓死する大飢饉（ホロモドール）が発生し、人肉食の悲劇が演じられた事実だ。私はたまたま2019年に、映画『赤い闇、スターリンの冷たい大地で』（アグニエシュカ・ホランド監督）を見てこの悲劇を反芻し、大躍進期の中国で、約2000～3000万人の餓死事件が起った悲劇と対比していた。中国の飢餓もまたウクライナの飢餓に似て、食糧不作の現実を毛沢東や周恩来が知らずに、対ソ借款返済のために人民公社制度を通じて穀物を强行調達したことが一因だ。農業集団化の痛ましい犠牲という文脈で、両国の飢餓の構造は、酷似している。さてウクライナの悲劇の映像化は、ウクライナのナショナリズムを刺激し、今回の戦争劇の序曲となつた感が深い。他方、ウクライナはこのような戦中期の悲劇の見返りとし

て、米ソ冷戦期（主として50年代）にはソ連軍事工業化国家の一大基地となり、核兵器や空母を生産する工業都市となった。激戦地アゾフスター製鐵所とその地下シェルターは、その一例だ。これは米ソ第3次大戦に備えた核シェルターであり、一夜に1.2万人!! 12000人を収容して、数ヶ月も生活・戦闘できる設備を備えている（アグニエシュカ・ホランド監督）を見てなみにキーウの地下鉄は100メートルの深さで世界一、モスクワの60メートルをはるかに上回る。これらももちろん核シェルターを兼ねてソ連時代に拡充された）。さて、ソ連解体後の1991年4月、ウクライナ独立に際して核兵器はロシアに引き渡し、見返りに「中立ウクライナの安全を保障する」とが当時の内外に対する公約であった。中国は1994年12月、両国政府声明でこれを約束し、中国ウクライナ善隣友好関係の基礎とした。冷戦が終わりウクライナにとって無用の長物となつた空母ワリャークは中国に引き取られ、遼寧号に変身し、これをモデルとして中国の国産空母山東号および福

建号が造られたことはよく知られている。ペーチンが併合したクリミアはウクライナ共和国の領土であった當時も、高度な自治権をもつ「国家内国家」であった。1954年ウクライナ出身のフルシチヨフは、クリミアを「ウクライナの一部」と宣言したが、人口の過半を占めるロシア人はこれに納得しなかった。2014年3月、クリミア共和国における住民投票が多数だとしてペーチンはロシア領に併合した。ロシア海軍にとって地中海に出る不凍港としてクリミア基地が地政学的に重要なこと、また日本の敗戦処理を決めたヤルタ会談の保養地としてもクリミア半島は記憶に残る。

VIII. 今次戦争の帰結は何か

- ① ロシアは制裁に耐えて、欧米の資源植民地とはならない決意を示した。いわゆるロシア制裁はロシア経済を窒息させるどころか、反転して資源や部品の供給網を寸断して、グローバル経済を混乱に陥れ、世界的なインフレを招いている（ちなみに、ロシアのエ

エネルギーを無視してドイツ経済圏は成立しない。ドイツはノルドストリーム再開への交渉を急ぐ)。②中国は対ウクライナ、対ロシア関係のバランスを堅持しつつ、戦後の世界での地位をますます固めつつある。③最も危ういのは日本だ。ウクライナ戦争前後から特に「G7との価値観共有」が強調される。いまあえて「先進国(=旧帝国主義諸国)の一員」を強調するのは、旧帝国主義の一員として、「アジアで孤立する日本」の居心地の悪さの逆証明ではないか。衰弱するG7との協調ではなく、むしろG20との協調による経済発展が肝要なのだ。日本政治は空騒ぎに踊った挙句、日本沈没の速度をいよいよ早めつつある。憂慮すべきはヨーロッパの戦争よりは、日本の安全保障無策ではないか。紛争当事国の方を国会でオンライン講演を許しながら、他方で対ロシア制裁の是非を問う声は一切許さない。無定見にウクライナを無条件に支持して、対ロシア制裁に加わることは、日本の安全保障にとって危険性が極めて高い。中国もロシア

も第2次世界大戦の戦勝国として、核兵器保有を国連で認められた大国だ。この2つの核大国と敵対するとき、米安保はまったく役立たない。東アジアにおいては、軍事的に劣勢であるばかりでなく、米国経済はその軍事力を支える経済力を欠いている。ウクライナ・ロシア戦争はヨーロッパに戦線をもつ戦争だが、日本の地政学から見ると、東部ロシア(シベリア)は一衣帶水の隣国であり、しかも国境線引きは未解決だ。漁業資源の交渉であれ、エネルギーの輸入交渉であれ、隣国との友好関係の維持が不可欠なときに、安易な人権外交に踊らされて国益を危うくすることは許されない。2月1日の衆院決議で中国非難の新・暴支膺懲決議を行い、中国を敵国扱いし(本誌5月号)、今回の対ロシア制裁でロシアを敵国に回した。このような日本政府と国会の暴走は、いまだかつてない事態だ。速やかに是正しなれば、日本は危うい。繰り返す。日本はNATO加盟国ではない。日米安保の極東条項にウクライナが含まれないのは明らか

だ。にもかかわらず、戦争の一方の当事者にオンライン国会演説を許し、他方さまざまの懸案を抱えたロシア外交官を一方的に追放し、プーチンからサハリンIIの警告を受けて慌てる姿は、安全保障のイロハを忘れた醜態と評するほかはない。

(2022年7月28日・公開講演会)

筆者略歴(やぶき・すすむ)

1938年郡山市生まれ。1962年東京大学経済学部卒。東洋経済新聞記者を経て、1967~76年アジア経済研究所研究員、1971~1973年東南アジアに遊学し、シンガポール南洋大学客員研究員、香港大学客員研究員を務める。1976年横浜市立大学助教授・教授を経て、2004年横浜市大名誉教授。現在、21世紀中国総研ディレクター、朝河貫一博士顕彰協会会長。主著は『天皇制と日本史—朝河貫一から学ぶ』(集広舎)、『チャイナウォッチ』(全5巻編集中、未知谷)など多数。

現代社会で必須な環境倫理学 「エコエティカ」について

佐藤建吉（会員）

はじめに

この原稿を書き始めようとした当日（7月3日）は、携帯電話のauの通信障害が前日から起り、総務大臣が「大変遺憾である」と記者会見し、また、事業者のKDDIの社長と専務（技術統括本部長）が「お客様には、多大なご迷惑をおかけしましたことを深くおわび申し上げます」と述べた。この事件は、携帯電話という科学技術に根差した巨大システムの運用と管理において、本稿の主題である「エコエティカ」、すなわち「環境倫理学」が

必要とされる好例であり、多くの課題が横たわっている。

私たち人類は、生きるために環境を選んできた。ある人々は、温かさを求めて、ある人々は食べ物を求めて。生き抜く場所の確保と維持に努力した。そうした暮らしの場所は生圏（あるいは生態圈）と呼ばれる。これこそがギリシア語ではoikos（オイコス）といい、いま私たちがeco（エコ）と呼んでいる言葉の原点である。生圏において繰り広げられた知恵と工夫、そして

国際善隣協会は、中国をはじめとする近隣諸国との友好親善に貢献することが目的にあるといえるが、こうした国際関係も、各国における暮らしの環境が異なるので、その理解が有効の前提であるともいえる。その局面において、「エコエティカ」の概念の理解は、有効であると思える。本稿では、

行っている。そして現代は、科学技術が主導の社会となっている。換言すると、科学技術は、新たな「環境」になっている。もはや、こうした状況においては、国内ばかりでなく国際関係においても、この環境と関わる環境倫理に、気配りをすることが必要とされる。

国際善隣協会は、中国をはじめとする近隣諸国との友好親善に貢献することが目的にあるといえるが、こうした国際関係も、各国における暮らしの環境が異なるので、その理解が有効の前提であるともいえる。その局面において、「エコエティカ」の概念の理解は、有効であると思える。本稿では、

『環境管理』誌に論述した内容を一部改編し、表題のように、「エコエティカ」についての理解と倫理観を広めたい。

「Habitus イカ」とは?

まず、はじめに「エコエティカ」について概略を述べたい。「エコエティカ」は、哲学者や美学者などと紹介されている今道友信氏（1922年11月19日生～2012年10月13日没、図1）



図1 講演中の今道友信氏（2007年）

の主著の表題である。同氏には、多くの著作や講演歴があるが、「エコエティカ」の普及に努めていた。

筆者は、いまから15年も前になるが、日本機械学会の「技術と社会」部門での活動において同氏との出会いがあり、その趣旨や時代背景、さらには同氏の人格などに惹かれて、「エコエティカ」に共感した。

それには、筆者の出身地である山形県鶴岡市という場所を、今道氏が旧制中学のときに「生圈」としていたという親しみもあった。同時にその地は、同氏の人生を哲学に向かわせた「生圈」でもあった。エコエティカとの宿命が、そこにはある。

図2に、1990年11月に講談社学術文庫として出版された『エコエティカ』の表紙の写真を掲げる。見出しには、「生圈倫理学入門」とあり、“Eco-Ethica”と英語が添えてある。それはethicsと表記されており、倫理学の本である。今道氏は、「倫理」は

そのことは、物理が物理学であることと同じにとらえることができる。事象の生起や運動は、物理学が説明できるが、倫理を語るには倫理学をしなければならないということである。

その意味において、「生圈倫理学」は私たちの暮らす環境が時代とともに変化するので、その事実を背景として、倫理しなければならない。それは、倫理学に裏付けられる哲学が必要となる。以下、その背景や関連について述べることにする。



図2 今道友信著『エコエティカ』
講談社学術文庫（1990年）

「技術連関」という環境

現代は、科学技術が主導の時代である。今から60年前、1960年からの所得倍増計画による日本の経済成長の駆動力には、「科学技術」が必要とされた。結果、日本は科学技術の分野を上手に取り入れ、経済成長と国力の增强を達成してきた。「科学技術」の適用と振興は、国民の生活や暮らしに、もはやではあるが気づかないものとなつてゐる。それは、結果ではあるが、眞の意味で成果といえるかどうかは、まさに「倫理」としての見解が必要となる。

科学技術は、科学と技術の融合であり、科学技術の成果は、科学と技術の独自の切り口であった。したがって、科学技術の主導した社会においては、それにマッチした倫理が必要となる。それは、以下で述べる「技術連関」という時代背景に適合した環境倫理であり、倫理学により裏打ちされる必要がある。

その議論のためには、まず科学と技術について説明しておく必要があるだろう。

科学とは、私たちが経験する出来事や現象、あるいは結果などについて説明を加え、知識として体系化された学問である。科学史家・村上陽一郎は、科学とは個人での見解であつても、学会という専門家の同業者により合意されて、はじめてその解釈や見解が科学となると指摘している。それゆえ、科学の対象は広くてもよく研究者の興味や発想を制限せず、過去・現在・未来（過現未）にわたり、また観察できる現象ばかりでなく脳内での考察も含まれる。

関連の用語に「技能」があり、技術

との声が多いのは、そうした多様化する対象に答えを求めるが故であろう。科学は、それに応えなければならぬ。なお、語源をたどれば、scienceに対する訳語として、西周によつて「分科の学」と解釈され、「科学」と名付けられたとされている。

これに対して、「技術」は、訳語ではなく「技の術」と綴ることは相応し

い。筆者は、前述のように日本機械学会の技術と社会部門などで活動していたが、そこでは「技術」や「技能」について解釈を加えたことがある。例えば、「技術とは、経験を通して獲得した対象行動への優れた適応力」と定義したが、この解釈では、「技術」はある対象を達成するための「優れた」やり方でなければならない。駄作や試行錯誤の方法では、術とはならないからである。また、技術の適用や獲得には、他者やほかに学会などの合意は無用である。各自が経験から、あるいは科学によって獲得し体系化した方法（＝適応力）が、技術となる。

現代においても、科学や科学的に、と文字どおり似ているが、それは技術に対しても瞬間的や即時性という特質が求められたものといえる。筆者が、「技能とは、経験から獲得した対象行動への優れた即時的達成力」と定義しているのは、そのためである。

技術は、ある課題や対象に、ある時間かけたのちでも、その解決のために優れた適応力を見出せば目的にかなう。

□ 科学と技術

しかし、技能にはそうした余裕はない。わかりやすい例は、「翻訳」と「通訳」である。前者は時間をかけて感銘が得られる訳文を作ることができるので翻訳技術である。が、後者の同時通訳は時間をかけてはいられない仕事であり、そういう役割が技能である。なるほど、英検は、実用英語技能検定という。

したがって、技術も技能も、自然科学の分野に限定されるものではなく、いわゆる人文科学や社会科学の分野にも適合する言葉である。繰り返しになるが、科学の対象は広い。技術や技能の対象は、具体的な行動における適応力や達成力である。

□ 科学技術

「科学技術」は複合語であり、新しい意味をなす。ある場合は、「科学・技術」として、英語の science & technology のように両者を併記して用いられるが、「科学技術」のほうが、複合しているゆえに深い意味をカバーできる。中国でも日本から「科学技術」という用語が移入されたが、中国では

独自に「技術科学」という言葉がつくれられた。それが、長岡と豊橋の技術科学大学の名前として日本に導入されたが、その技術科学という原意は生かされず新構想を示すための名目としての適用だけになっている。

科学技術という用語は、土木エンジニアであった宮本武之輔（1892～1941）が、初めてつくったとされている。科学技術は科学と技術が融合し、モノづくりの合理性を發揮する象徴でもあった。科学技術は、日本独特の表現である。現在、科学技術政策は、科学技術基本法に基づき、科学技術基本計画を閣議決定し、推進している。

2011年3月11日に「東日本大震災」が起こった。それは、地震津波、そして原子力発電所のメルトダウンといふ「科学技術」の適用に大きな衝撃と反省を与えた。それで、科学技術基本計画も見直しされた。現在は第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3～7年度）として遂行されている。後述するが、科学技術の適用と推進は、その倫理観が反映されねばならない。

□ 技術連関

「技術連関」は、今道友信氏の指摘である。それは、「エコエティカ」の本質的な見解である。本章のはじめに述べたように、我が国の高度経済成長の牽引力が、「科学技術」であった。その結果、科学技術が、空気のようになくてはならないものとなつた。それは同時に、その存在に気がつかないくらい普通となつたが、その影響力は大きい。したがって、その影響を生活のかなり取り入れた道徳としなければならない。したがって、それは倫理の対象であり、倫理学としなければならない。

前述したように今道氏には、2007年、千葉大学で講演をお願いした。会場の西千葉キャンパスまでは、電車で東京から1時間である。同氏は、その1時間について話題とし、時間の重要性を説いた。技術連関では時間が大事な背景であることを述べた。なぜなら、科学技術の適用は、ある意味で時間は無駄にしない、時間の節約を主眼として発展してきたことに由来するこ

との例証であった。

同時に人間は、科学技術を生かし自然から離脱するように都市に住み、人工物とともに暮らすことを選択してきた。これが普通の暮らしとなつたのが現代であるといえる。

一方で自然は人間の環境であるが、自然が唯一の環境ではないことに気づく。人間の環境には新たに科学技術が加わり、むしろ自然の関わりを抑えてしまった。結果、科学技術の大きな影響を持つようになってきた。その背景は複雑となり、しかも互いに影響を持つようになった。例えば、今道氏の本から引用すれば、「アスファルトや軌道や電車、信号機、電話のように一連の技術的な環境、つまり技術の連関」を見出すことができる。

この意味において、今道氏は、科学技術の関わる環境を、短く「技術連関」と呼んだ。それは最初、フランス語の *conjonction technologique* として今道氏により名付けられた。英語では、*technological conjunction* となる。すなわち、「技術連関」が、人間の新

たな環境として無視できない時代になつたと、解釈された。

生態倫理学／エントロジー

生態学は、一般にエコロジー (ecology) といわれる。私たちが暮らす生態を含む場についての環境や形態を問う。それは、自然と人工の2つに分けられるが、1万5千年前から始まる縄文人の文明の歴史は、自然と共生してきた。したがって、自然／共生／人工の3つに人間と自然の関わりを分けられるだろう。私たちの暮らしにおいて生態倫理学として考える視点を述べたい。

□ エントロピーの増大

熱力学の第2法則は、「エントロピーの法則」ともいう。熱力学であるので、熱の移動を考える。いま、高熱源（高温側）と低熱源（低温側）の2つを接続するが、熱は高熱源から低熱源に移動すると、熱は高熱源と低熱源に移動し、外部に仕事をすることができる。

しかし、このとき、高熱源と低熱源の境では、同じ量の熱が出入りしているのであるが、新たにエントロピーという、高低の温度を基準として熱の出入りを考えると、高温側のエントロピーと、低温側のエントロピーでは、高温側よりも低温側のエントロピーのほうが大きくなる。つまり、熱の出入りでは、エントロピーが増大することになる。

熱の出入りを期待するのは、仕事をして欲しいからである。それは、人間の労力を軽減したいからで、つまり樂をしたいからである。そのためには、自動車のエンジンも、ガソリンを燃やしシリンドラーの上部に高熱源をつくり、外気（実は水冷している）とつながったシリンドラーの下部に熱を伝える。その熱を受け取り、仕事をさせるためにピストンが下降する。連続して仕事をしてもらうためには、ピストンを往復運動させ、それを回転運動に変えて車輪を回すことで、走行することができ。すると、ガソリンの消費量に対しても走行距離や動力の大きさなどの効率に関心が向けられる。

このエンジンの例でも、高熱源から低熱源への熱の移動が基本原理であり、その局面が効率の高低に関係する。エントロピーが熱の移動で増大することは、実は熱の仕事への効率が、理想の最大効率は得られないことを教えてくれる。つまり、非効率な局面が関与していることを意味する。機械に仕事をさせることは、エネルギーの無駄遣いが必須となることを意味する。

さらに、普遍的にいふと、人間社会で機械や装置に仕事をさせると、エネルギーが蓄積されるということになる。したがつて、私たちは、「省エネ」と同時に、「エントロピーの増大を抑えた」暮らし（機械や装置、システムや方法など）を志向しなければならない。

□ 暮らしのなかのエントロピー

自然が人工物で圧倒されそうになっている。その象徴は都市であり、人工物の集積がみられる。産業がその駆動力として展開されている。都市開発にも秩序が必要と思われる。上海の高層

建築の建設は盛んである。その景観は無秩序とさえ思うのは筆者だけだろうか。

エントロピーは情報工学における情報の質を規定する。情報の無秩序さ（乱雑さ）も「エントロピー」である。無秩序であると、高エントロピーとなる。無秩序とは、統一性や規則性がなく、混乱が生じていることである。情報としてみると、混乱しており適用や応用が容易でない状態ともいえる。一方、高度な情報は、エントロピーが低い。多くの可能性を持ち、融通が利くとみることができる。この見地からは、大人に比べ子どもは可能性がありエントロピーが低い。大人はある方面に凝り固まって融通が利かないでの、比較としては高エントロピーとみなされる。

人工都市における複雑さは、エントロピーが高く、それは煩雜であることを意味する。煩雜さを改善するにはエネルギーが必要であることを意味する。煩雜さをなくし、日常においてもわりやすく社会をスマートに、そしてシンプルな美しさを保つには、日常の働きかけ、すなわちメンテナンスが必要であることを教えてくれる。

生態においても同様であるといえるだろ。元来、自然の成り立ちは多くの要素が複雑なシステムとして成り立っている。例えば、生命の維持に必須な「水」の循環について考えるとわかりやすい。水は、海に多くがある。それは、海が最も低い位置にあり、水は高いところから低いところに流れるからである。ちょうど、熱の流れと似ている。

海洋の水は、太陽のエネルギーを得て、蒸発し、蒸気となり、雲をつくり、移動し、雨や雪となって、山岳や大地や海洋に落ちる。山野や台地には、動植物や微生物が暮らしている。それが吸収と排出を繰り返し循環が行われている。その種類の数は、870万種を超える。この生命の多くには、水が関わっている。その生命維持における過程（素過程）は、あまり変化がないであろうが、人間の存在が自然への関わりで変化を与えていているといつても過言ではない。

□ 人間と自然

そのため生態の維持においては、人間にこそ倫理が求められることを意味する。それは、生態倫理学と呼ばれる。

環境倫理学

生態倫理学と類似ではあるが、環境倫理学がある。これは、主体者を定めたときの生態倫理学でもある。ここで、主体者を人間とすれば、人間の周りが環境となる。

公害が、人間の身体を蝕み健康を害し、変形をつくりだした。口を持たず苦痛を叫ばない人間以外の動植物は、自らの生き方と死に方を変えて対応してきた。自然の力ともいわれるが、穏やかな環境変化ではあれば許されるかもしれないが、急激な蝕みは「公害」といえる。公害環境とはならない主体者と共生できる環境倫理について倫理学することが求められる。環境倫理学が呼ばれる所以である。

生圏倫理学／エコエティカ

最後に、「生圏倫理学」を考えよう。これこそが、本題の倫理学であるが、生きる場＆生きる環境についての倫理学である。

科学技術が、これまで生圏（生きる場）や環境に与えた影響は大きい。それが、エコエティカへの導線となっている。エコエティカとして広められた生圏倫理学の特徴は、倫理学の主体が、個人のほか団体や組織（集団）である点にある。科学技術の推進も国家やメーカーが主体的に行う局面が普通となっている。個人や家庭は、そのユーザーとしての立場になる。そして、コンピュータやインターネットなどのデジタル社会が普通になり、二極化が進行する。すなわち、それらのハードやソフト、そしてシステムやアプリケーションを創る人と使う人の二極になってしまう。この局面でも倫理が必要とされる。

東日本大震災から、すでに11年が経過した。その事故は天災という自然の環境がつくりだしたが、原子力発電所の事故に象徴されるように人災という科学技術の適用がつくりだした面がある。私たちの暮らしは、人間が責任を負わなければならぬが、人間と自然、人間と科学技術という対立がある。ここでは、自然と科学技術は、同じく私たちの生きる環境である。科学技術は、具体的には技術の複合的適用であり、自然と技術連関が、人間の環境である。この環境を、エコエティカ（生圏倫理学）では考えなければならない。

技術連関という環境は、自然という環境に補足、重視されなければならない。科学技術の提供者は、ますます規模が大きくなり、大企業や国家の実施

となり、しかもICT（情報通信技術）の比重が大きくなっている。この局面では対面ではなく、遠隔（リモート）で、非対面で行われる。その利便性もあるが、「責任」という面においても遠隔で非対面となる。

国家の政府や委員会が責任の所在となるが、責任の取り方があいまいになる。役職の解任や降格がその手法であり、被害者への救済が不十分となることが多い。「エコエティカ」では、そうした面の倫理学を問わなければならない。

こうして、従来では個人における行動や思考に倫理が倫理学の対象とされたが、現代では、集団や法人に向けられなければならぬ。そこで、従来では個人における行動や思考に倫理が倫理学の対象とされたが、現代では、集団や法人に向けられなければならぬ。

冒頭に述べた携帯電話の通信障害の影響は、もはや空気と同じ存在の携帯電話の運営と責任に対し、身近な例として再確認させた。「エコエティカ」が必須である。

結び

以上、本稿では、環境倫理学における新しい話題を提示した。その典拠は、今道友信氏が遺した「エコエティカ」（生圏倫理学）である。この重要性は、人間の環境としての従来の「自然」のほかに、科学技術の適用により、「技術連関」という環境の重要性にある。

「エコエティカ」での取り上げるべき時代にリンクした新たな徳目は、
 ①フィロクセニア（異邦人愛）
 ②定刻性
 ③国際性
 ④語学と機器の習得
 ⑤エウトラペリア（気分転換）
 と呼ばれる知的な対象である。これらは、一国だけを前提とした暮らしへではなく、ICTの利用によるグローバルな暮らしや活動において必要とされる。さらに、持続可能な未来について個人ばかりでなく組織として、国家として意識しなければならない。そのキーワードは、エコロジカルな暮らし向き、そして経済活動である。SDGsは国連主導の指導概念である。日本でも小学校からの学習により未来を生きる若者たちは意識し定着してきた。

- そして「エントロピーの増大」を抑える必要性の意味を理解し、これを推進することが必要となる。その意味で、再生可能エネルギーの利用などを適用することは、その解決策として、筆者の法人（一般社団法人 洋楓座）が推奨したいテーマである。
- 結びに、戦争は、エントロピーを増加させる破壊行為であり、国際関係といことであると指摘し、本協会の会員とともに共有したい。
- 【参考文献】**
- (1) 佐藤建吉、「エコエティカ」は、現代社会で必須の倫理学」、『新エネルギー新聞』（第52号7面、2016年5月16日、毎月曜発行）。
 - (2) 今道友信、『エコエティカ（生圏倫理学入門）』、講談社学術文庫（1999年）。
 - (3) 立花隆、『エコロジー的思考のすすめ』、中公文庫（1990年）。
 - (4) ジュレミー・リフキン（著）、竹内均（訳）、『エントロピーの法則』、祥伝社（1982年）。
 - (5) 佐藤建吉、「自然とともに暮らす意義とは?—「エントロピー」が警鐘すること」、『新エネルギー新聞』（第102号15面、2018年4月16日、毎月曜発行）。

中國
ウオッキンク

編・訳 上松玲子



%を占める。

閲覧回数が増えるほどもうかることから、配信者はたとえアカウントを閉鎖されてもまた別アカウントで低俗で醜悪なライブ配信を繰り返し、秩序を乱している。中には閉鎖を恐れて、あらかじめ複数のアカウントを利用している者もいる。

関係部門はさらに監督を強化して、健全な情報共有システムを構築しなければならない。違反者が登録抹消後も、再登録や業者の乗り換えで復活しないようサービス業者も法的責任を追及されるべきだ。また、業者間で連携して、ブラックリスト入りした配信者には共同で規制をかけるなどするべきだ。

(『法治日報』2022年3月30日)

国家インターネット情報弁公室の責任者は2022年はライブ配信やショート動画配信について「色」(わいせつ)、「醜」、「怪」、「假」(フェイク)、「俗」、「賭」などを重点的に取り締まる」と発表した。

ライブ動画配信は旬の題材を扱い、娛樂性が高く、視聴者も参加できることから人気が上昇、

2021年12月現在、ライブ配信利用者は7億3百万人と、前年同期比8652万人も増え、インターネット利用者の68・2

の提出は取り消されたほか、保護者の職業、収入などの情報取得の厳格な禁止、アプリなどで児童の個人情報をくり返し収集することを禁止している。

今年はいよいよ2000年以降に生まれた世代が就職する。

彼らが就活で重視するのは「給与の将来性」「高待遇で忙しくのものだが、現実には教師の差別や金持ち偏重の態度を招いた。問題の核心は情報収集自体よりも、情報の活用法について保護者が監督できるかどうかだ。

一部の地方では出稼ぎ労働者の子弟の入学に事実上のハードルを設けている。地方財政を圧迫する恐れがあるからだ。しか

しこれは義務教育の精神に反する。今年の「政府工作报告」では定住人口に基づく教育資源の配置を明確に打ち出している。これは教育の平等を意味するが、実際は教育財政システムの制約を受けている。

問題は省を越えて流入する人には中央財政からの支出部分を多くも誇り高い彼らも、数年口が多い場合なのだ。問題解決には中央財政からの支出部分を増やすこと、省全体での予算管理を強化することであろう。

社会の波に揉まれれば角がとれるだろうという先輩たちの経験に基づく見方さえも、彼らは受け入れない。古い人間にありが

一線を越える動画

平等な教育のためには

現在各地方政府で行われてい

る義務教育入学者登録の過程で、不必要な情報の提供や取得をしないという原則の徹底を教育部が指示した。学齢前教育歴や計画出生証明、学齢超過証明など

新世代の職業観

『光明日報』2022年4月6日

今年はいよいよ2000年以降に生まれた世代が就職する。

彼らが就活で重視するのは「給与の将来性」「高待遇で忙しく働くこと」のほかに特殊なものがある。例えば「上司が怒らないこと」などだ。

彼らにとっては週休2日や残業ゼロ、月給1万元以上は当然のこと。遊ぶために有給を取り、上司の前で自由に意見を述べ、

残業にもノーと言える。彼らのほとんどの辞書には「投其所好」即ち他人に迎合する、という言葉はない。上司がコーヒーを望んだら、70、80、90年代生まれなら、内心はともかく用意するだろうが、2000年以降生まれの若者は平等な職場環境への憧れを隠そうともしない。

かくも誇り高い彼らも、数年社会の波に揉まれれば角がとれるだろうという先輩たちの経験に基づく見方さえも、彼らは受け入れない。古い人間にありが

ちな意見にしか聞こえない。

彼らの自分自身への関心は先輩たちより強く、この仕事が好きか、楽しいかを重視する。少から生活環境に恵まれた彼らは職場の雰囲気や環境や成長の機会などソフト面を待遇よりも重視する場合もある。

（『中青ネット』2022年5月8日）

北京大学を棄てた学生

11年前、周浩は北京大学を退学し、北京市工業技師学院に移った。このことは職業教育史に残る事件として世の中を騒がせた。得意でも好きでもないことを学もつたいないという声のほか、「北京大学を棄てた学生」という声もあった。

今、先駆者の周は多くの受験生が将来どんな職業につながるのかも知らぬまま、好きでもない専攻を志望している現状を指摘、初等教育の段階から職業知識を養うべきというかねてよりの持論を述べる。

幼稚園の頃から模型の組み立てや篆刻が好きだった周は、暇

さえあれば終日模型に没頭していた。だが、大学受験の統一試験で660点という好成績を取ったがために、本来志望していた実習の多い北京航空航天大学ではなく、周囲が「もったいない」という理由で勧める北京大学生

命科学学院に進んだのだ。だが、彼は生命科学に全く興味がなく、苦痛のあまりうつ状態にもなった。聽講、休学、アルバイト生活を経て、ついに退学して好きなことを学ぶ道を選んだ。

卒業後、母校の教師になった彼は責任の重さを実感する。「教師の一言が学生の人生を変える」。社会の職業技術学校生を見る目は冷ややかで、学生も劣等感を抱えている。教師がすべきことは、まず自信の再構築だと気がついた。機器の修理に無関心な学生たちも、その機器が航空宇宙事業で使われること

得意でも好きでもないことを学歴のために続けるのは無意味だという声もあった。

今、先駆者の周は多くの受験生が将来どんな職業につながるのかも知らぬまま、好きでもない専攻を志望している現状を指摘、初等教育の段階から職業知識を養うべきというかねてよりの持論を述べる。

しかし、見えない天井が存在する。雇用側は能力より、学歴を重んじる。そのため中等職業学

校（中学卒業後進学する中等専門学校、技術学校、職業高校…）を卒業生の多くが高等職業学校や修士課程を目指す。

（『新華毎日電訊』2022年5月10日）

「雇用側は専門技術に関する評価能力を持つべきだ」。

今年5月1日に新しい職業教育法が施行され、そこには職業学校卒業生が進学、就職の面で普通課程の学校と平等の機会を享受すべきと明確に規定された。法律上の平等は喜ばしいが、事実上の平等を勝ち取るまでには道はまだ遠いと周は語る。社会の人材採用システム、教育システム、個人の意識から変えていかねばならないという。

周が深圳でのアルバイトで知り合った女性は他の人が識別できない色の違いを見分けることができたが、残念なことにその力に彼女自身が気づいておらず、教育を受ける機会もなかつた。第三の眼は確かに頼もしい存在である一方、科学技術は諸刃の剣だ。買い手には正規品の購入を、作り手には品質重視を、関係部門には市場の監督を望む。

個々の天性や隠れた能力を伸ばす教育が理想と彼は言う。彼自身が自分で道を開いたように。

第三の眼に潜むリスク

多くの人々が防犯目的でインテリジェントカメラを搭載した製品を使っている。泥棒に侵入されたり、愛車を傷つけられたり、年寄りや子どもに危険が及ぶことを心配してのことだ。しかし、これらの製品は別の新しい悩みを生む。それは、そうしたカメラには隣人たちの日常の姿が映りこんでしまうというこ

とだ。逆に言えば防犯を口実に盗撮する悪人もいるし、クラウドの中に保存された動画が盗まれることもあるということだ。家庭用のビデオカメラ、車載カメラ、テレビドアホンなどの

普通教育は言語と論理面に力を入れているため、文系科目の成績が低いと「失敗者」の烙印を押され、多くの隠れた才能が封印されてしまうと彼は言う。

（『工人日報』2022年5月15日）

パッケージ型自動消火設備
(スプリンクラー)

馬場由紀子先生の指導で、対面と通信と並行して開催いたします。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

〈説明会〉

松木千俊先生のお稽古は一人ずつの個人指導です。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

公園 (表4上)

旧防衛庁本庁檜町庁舎は200

年3月に民間アーロッパー三井不動産によりミッドタウン・タワー地上54階、高級ホテルのザ・リツツ・カールトン、高級マンションなどに再開発された。防衛庁は2000年市ヶ谷に移転、開業後は年間3500万人の集客があり、隣接する国立美術館も開館し東京の人気スポットとなつた。写真は7月中旬に尾瀬で撮ったものです。



避難器具(垂直式救助袋)

を受け、無事承認された。協会の夏休みは、8月15日～17日の3日間とする。

(事務局長 竹前栄男)

みんなの写真館

尾瀬 (表紙)

7月中旬に尾瀬で撮ったものです。尾瀬は言うまでもなく、知名度の高い古くからの国立公園です。観光スポットになつたのはおよそ90年前です。周囲を至仏山、景鶴山、燧ヶ岳、アヤメ平といった山野に囲まれた盆地に形成された高層湿原です。日本の人々に愛され続けて、あの有名な「夏の思い出」が誕生したわけです。尾瀬を訪れたのは今回で3回目です。毎回新しい感動、新しい発見があります。今回は7月の中旬なので、過去に見た水芭蕉が咲いておらず、代わりにニッコウキスゲ、ワタスゲ、ヒオウギアヤメなどがたくさん咲いていました。あまりに気に入つたので、次回の訪問は草紅葉が湿原を染める秋にする予定です。

(姜曾如)

組体操 (表4下)

亀の世界に「組体操」があることは知らなかつたよ！ 首を伸ばして、真剣な目つきを見せてください！ なお、この亀の池は、千葉大学工学部があり、講演委員会の佐藤建吉氏が現役のころ、水の浄化の研究をされたことがあります。(藤沼弘一)

7月例会では初心者の方が参加され、先輩たちから指導も受けておられます。会員募集中ですので、ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

〈俳句会〉

馬場由紀子先生の指導で、対面と通信と並行して開催いたします。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

入ったので、次回の訪問は草紅葉が

(村田嘉明)

2022年9月の行事予定

- 1日（木） 14：00 公開 第9回オンライン講演会（Zoom方式で実施）
「ロシア・ウクライナ侵攻と日本の対米従属体制」
白井聰氏（京都精華大学准教授）
- 13日（火） 16：00 諧曲会（松木先生お稽古）
- 14日（水） 13：00 俳句会
兼題「筋子、肘」及び当季雑詠から5句を投句（8月末までに）
- 22日（木） 14：00 公開 第10回オンライン講演会（Zoom方式で実施）
「安倍氏暗殺後の日本の政治と経済、そしてメディア」
尾形聰彦氏（朝日新聞・前サンフランシスコ支局長、Arc Times 編集長）
- 28日（水） 14：00 公開 【善隣古海塾】（Zoom方式で実施）
塾長：古海建一氏（当会最高顧問）

9月の会議予定

6日（火） 13：00 国際交流委員会	15日（木） 15：30 広報委員会
13日（火） 13：00 環境委員会	20日（火） 12：30 講演委員会（Zoom）
15日（木） 13：00 理事会（第6回）	28日（水） 14：00 東北委員会

※下線は通常日程に変更あり。

みんなの 写真館

ISSN 0386-0345
二〇二三年(令和四年)九月一日・毎月一日発行

「善隣」第五一八号(通巻七九五)



発行所
〒105-0004
一般社団法人
国際善隣協会
電話 03-3573-3051
東京都港区新橋一丁目五番
代表会

INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)
<http://www.kokusaizenrin.com>